

観 光/専門科目

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
観光学概論A	観光学入門	高柳 直弥	1 年次前期
講義の目的	人が国境を越えて自由に移動することは、政治的・経済的・文化的に様々な影響を及ぼすため、日本をはじめとする各国においても外国人の来訪を促進しています。本講義では、観光と文化・社会との関わり、並びに現在の観光産業が直面する諸問題を考察していきます。		
到達目標	観光・旅行業、関連産業に進む予定の学生の基礎教養を養う。具体的には、現代観光の動向を把握し、観光形態や旅行者、生活者の意識の変化について理解し、説明できるようになる。		
内容講義	観光は、21 世紀の基幹産業といわれています。本講義では、歴史・理論・政策等の視点から観光に迫ります。特に観光に関する基礎理解を深め、将来の仕事に活かせるよう配慮します。		
講義スケジュール	第 1 講	オリエンテーションと観光の定義	
	第 2 講	観光とは何か：世界と日本の観光の現状を知る	
	第 3 講	旅と観光の歴史（1）：旅の文化史	
	第 4 講	旅と観光の歴史（2）：日本の近代以前の観光	
	第 5 講	旅と観光の歴史（3）：日本の近代観光	
	第 6 講	観光と航空（1）：観光交流における航空輸送業の役割とは	
	第 7 講	観光と航空（2）：航空輸送業の経営について	
	第 8 講	観光と鉄道（1）：観光交流における鉄道の役割とは	
	第 9 講	観光と鉄道（2）：鉄道事業の経営について	
	第 10 講	わがまちの観光資源	
	第 11 講	観光と宿泊業（1）：ホテルの歴史と機能	
	第 12 講	観光と宿泊業（2）：宿泊業に関連する法整備と観光立国	
	第 13 講	旅行業の役割	
	第 14 講	多様化する観光対象	
	第 15 講	観光と地域づくり	
方法指導	観光を体系的に把握、理解します。副次的に新聞やテレビ番組等よりトピックを取り上げて、観光と経済の関連と、その波及効果について解説し、理解を深めます。なお、受講生の人数や関心、理解度に応じて計画を若干変更する場合があります。積極的に学ぶ意欲のある人を歓迎します。		
授業外学習	【事前学習】 シラバスを参照の上、テキスト該当ページを熟読し、未修の用語等について調べておくこと。 【事後学習】 講義中に配布するプリントの内容を再整理すること。		
成績評価方法	【平常点】（小テスト：30%、授業内課題：20%）、【本試験】（レポート）：50%。		
テキスト	太田 実・中島 智編『新・観光を学ぶ』八千代出版、2017 年。		
書籍参考			
事項記	なし		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
観光学概論B	観光産業を学ぶ	高柳 直弥	1年次後期
講義の目的	本講義では、従来の観光産業の経営に対する考え方や手法の課題を具体的な事例を示しながら整理し、今後求められることが予想される経営姿勢などを考察し、指導する。		
到達目標	観光とまちづくりの関係を念頭に置きながら、地域活性化の手法として観光を考えることができるようになる。 観光やまちづくりの事例について観光マーケティングや経営の理論から考えることができるようになる。		
内容講義	観光まちづくりの考え方を基本において、様々な地域観光のあり方を考察し、観光産業や観光マネジメントについて理解することを目指します。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーションと観光政策の動向について	
	第2講	観光事業のマネジメントとイノベーション	
	第3講	観光事業のグローバル経営	
	第4講	観光マーケティング	
	第5講	観光と Web ビジネス	
	第6講	観光関連産業の事例考察(1): 旅行業	
	第7講	観光関連産業の事例考察(2): 宿泊業	
	第8講	観光関連産業の事例考察(3): 航空輸送業	
	第9講	観光関連産業の事例考察(4): 鉄道事業	
	第10講	観光関連産業の事例考察(5): テーマパーク	
	第11講	地域の観光まちづくり事業: B級グルメ・ゆるキャラ・ローカルヒーローなど	
	第12講	地域ブランドのマネジメント	
	第13講	地域のインバウンド事業	
	第14講	芸術文化と観光: ミュージアムマネジメントとアートツーリズム	
	第15講	企業と観光: 産業観光と企業がつくる博物館	
指導方法	観光を体系的に把握、理解します。副次的に新聞やテレビ番組等よりトピックを取り上げて、観光と経済の関連と、その波及効果について解説し、理解を深めます。なお、受講生の人数や関心、理解度に応じて計画を若干変更する場合があります。積極的に学ぶ意欲のある人を歓迎します。		
授業外学習	【事前学習】 シラバスを参照の上、テキスト該当ページの内容や事前に提示したテーマについて調べておくこと。 【事後学習】 講義中に配布するプリントの内容を再整理すること。		
成績評価方法	「本試験(レポート)」(50%)、「平常点(小テスト)」(30%)、「平常点(授業内課題)」(20%)		
テキスト	太田 実・中島 智編『新・観光を学ぶ』八千代出版、2017年。		
参考書籍	高橋一夫・柏木千春(編)『1からの観光事業論』碩学舎、2016年 谷口知司編『観光ビジネス論』ミネルヴァ書房、2010年。		
事項記	なし		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
観光関係法規	旅行業法と旅行業約款	手塚 郁子	1年次前期集中
講義の目的	旅行業法や旅行業約款を学び、その内容を知ることは、観光関係の仕事に携わる上において、旅行の快活かつ円滑な実施はもとより顧客とのトラブル防止につながります。同時に自身が旅行をする場合の消費者としての立場からも有益になるものと考えられます。さらに国家資格である旅行業務取扱管理者試験の合格にもつながります。以上のようなことから、規則に則った正しいご案内ができるようになることを目的とします。		
到達目標	国家資格である旅行業務取扱管理者試験の合格を目標に定めます。		
講義内容	講義の目的に鑑み、国家試験の合格を目標に定めて、テキストを中心に出题率の高い問題を解きながら実例を交えて易しく解説していきます。		
講義スケジュール	第1講	科目ガイダンス 旅行業務取扱管理者試験の概要と意義	
	第2講	標準旅行業約款の学習の仕方 募集型企画旅行契約の部 ①適用範囲と定義	
	第3講	募集型企画旅行契約の部 ②契約の内容、手配代行者、契約の申込みと予約	
	第4講	募集型企画旅行契約の部 ③契約締結の拒否と契約の成立時期	
	第5講	募集型企画旅行契約の部 ④契約書面と確定書面	
	第6講	募集型企画旅行契約の部 ⑤契約の変更	
	第7講	募集型企画旅行契約の部 ⑥旅行者からの契約解除	
	第8講	募集型企画旅行契約の部 ⑦旅行者からの契約解除	
	第9講	募集型企画旅行契約の部 ⑧団体グループ契約と旅程管理	
	第10講	募集型企画旅行契約の部 ⑨責任	
	第11講	募集型企画旅行契約の部 ⑩旅程保証	
	第12講	受注型企画旅行契約の部 ①定義～契約の締結	
	第13講	受注型企画旅行契約の部 ②契約の変更と解除	
	第14講	受注型企画旅行契約の部 ③団体グループの取扱いと旅程管理、責任	
	第15講	特別補償規定 ①補償金等	

講義スケジュール	第 16 講	特別補償規定 ②損害補償金
	第 17 講	手配旅行契約の部 ①第 1 章～第 3 章契約の変更及び解除
	第 18 講	手配旅行契約の部 ②第 4 章旅行代金～
	第 19 講	旅行相談業務、旅行業約款の整理と復習
	第 20 講	旅行業法の目的と定義
	第 21 講	登録制度と営業保証金制度
	第 22 講	旅行業務取扱管理者とその職務
	第 23 講	旅行業務取扱料金、標識、約款
	第 24 講	取引条件の説明、書面の交付
	第 25 講	外務員、広告についての規制
	第 26 講	受託契約と旅行業代理業
	第 27 講	企画旅行における旅程管理
	第 28 講	旅行業協会
	第 29 講	禁止事項
第 30 講	旅行業法の整理と復習	
指導方法	テキストを中心に講義形式で行います。条文を解説した後に演習問題を解くことを繰り返し、理解を確認していきます。内容量も多く前後が関連するため、途中で欠席してしまうと理解が難しくなります。なるべく出席するよう心がけてください。また、テーマごとに小テストを実施しますので欠席をすると不利になります。	
授業外学習	事前学習としては各回のテキストページを一読しておくこと、授業時において理解しやすくなります。事後学習は必ず行わなければならない、毎回学んだ授業内容を整理して少しずつ覚えていくことが必要です。	
成績評価方法	本試験（筆記試験）50%、平常点（小テスト）50% ただし、出席が 2/3 以上でなければ評価の対象にはなりません。	
テキスト	『旅行業務取扱管理者シリーズ TEXT 1 旅行業法令』（株）旅行綜研 2018 年 『旅行業務取扱管理者シリーズ TEXT 2 約款』（株）旅行綜研 2018	
参考書籍		
特記事項		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
旅行実務論	旅行実務における JR 計算基礎力の養成	手塚 郁子	1 年次前期
講義の目的	JR 旅客営業規則に従った基本的なルールや複雑な運賃料金の計算方法を学び、国内の鉄道旅行において必要となる「運賃・料金」の正しい見積書を打ち出すことが出来るように学習します。さらに国家資格である国内旅行業務取扱管理者試験における「国内旅行実務」の科目の学習の一助となることを目的に学びます。		
到達目標	国家試験に出題されるレベルの JR 運賃料金計算ができるようになることを目標に定めて、旅行業務取扱管理者試験合格を目指します		
内容講義	JR の規則は複雑ですから、個々のルールをしっかりと覚え、面倒がらずに計算式をたてて積み重ねていかないと一つの問題を解くことができません。繰り返し問題を解きながら解説をしていきます。欠席をすると理解が難しくなります。毎回出席することを望みます。		
講義スケジュール	第 1 講	講義科目ガイダンス	JR 旅客営業規則 運賃と料金 旅客の区分
	第 2 講	JR 運賃計算の原則 (幹線と地方交通線・JR 時刻表)	
	第 3 講	JR 運賃計算の原則 (1.2 回目の復習・本州三社・有効期間と途中下車)	
	第 4 講	JR 運賃計算の原則 (本州三社・北海道)	
	第 5 講	JR 運賃計算の原則 (3.4 回目の復習・四国・九州)	
	第 6 講	JR 運賃計算の原則 (本州～北海道・四国・九州)	
	第 7 講	JR 運賃計算 (5.6 回目の復習・通過連絡運輸・連続運賃)	
	第 8 講	JR 運賃計算の特例 (特定都区市内発着・山手線発着)	
	第 9 講	JR 運賃計算 (7.8 回目の復習・特定区間・大都市近郊区間)	
	第 10 講	JR 割引運賃の計算	
	第 11 講	JR 料金の概要 (9.10 回目の復習・特急料金)	
	第 12 講	JR 料金 (グリーン・寝台)	
	第 13 講	JR 料金 (11.12 回目の復習・乗継割引)	
	第 14 講	JR 料金・(乗継割引) 運賃料金の払い戻し	
	第 15 講	団体の取扱い	
方法指導	テキストを中心に例題、練習問題を解きながら講義を進めていきます。小テストを適宜行うので欠席をすると不利になります。		
学習授業外	授業前の事前学習は、個々の認知度によっても違いますが、ある程度の地域名とその場所がわからないと授業内容が理解しにくくなりますので、時刻表の地図などを参照して、主な駅名や路線などを見ておいてください。事後学習は、授業で学んだ内容を整理して覚え、繰り返し問題を解くことが重要で必ず行う必要があります。		
成績評価方法	本試験 (筆記試験) 50%、平常点 (小テスト) 50% ただし、出席が 2/3 以上なければ評価の対象にはなりません。		
テキスト	『旅行業務取扱管理者シリーズ TEXT 3 国内旅行実務 I (運賃・料金)』(株)旅行綜研 2018 年 (テキストは、毎年変更されているため、昨年のもは不可)		
書籍参考	『JR 時刻表』(大型 2018 年 4 月号)		
事項特記	計算機能だけ (スマートフォンなどは不可) の計算機を各自、用意してください。授業試験時に必要です。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
観光プランニング実践	時刻表検索、運賃料金のエキスパートを目指して	手塚 郁子	2年次後期
講義の目的	時刻表のピンクページの適用ルールを習得して、時刻表を読み込む力、使いこなす力を養い、主に鉄道旅行のプランにおけるJR旅客営業規則に基づいた正しい運賃料金計算とその説明ができる能力を身につけることが目的です。		
到達目標	JRを中心とする営業規則に則った運賃計算方法を習得し、それらを踏まえたうえで応用力を身につけて、実際の旅行プランにおける正しい運賃料金計算の見積書を提示することができるようになることを目標とします。		
講義内容	鉄道旅行を中心とした「旅行プラン作成」のために、運賃計算応用能力を身につける学習をします。実際の鉄道旅行コースに即して見積計算をするために必要な距離を時刻表から検索し、運賃料金を算出します。時刻表を引いて距離を割り出した過程やその根拠など、必要事項を細かに書き上げた上で計算式をたて、その運賃料金計算を毎回提出してもらいます。講義よりも実践の時間が主になります。1年次前期の「旅行実務論」の応用編になるので、基本的には「旅行実務論」を履修しておく必要があります。		
講義スケジュール	第1講	科目内容ならびに履修のための注意事項等の説明	
	第2講	1年次「旅行実務論」の復習	
	第3講	運賃計算の基本(連続乗車券)	
	第4講	さまざまな運賃表による運賃計算	
	第5講	運賃計算の特例(特定都区市内)	
	第6講	運賃計算の特例(大都市近郊区間)	
	第7講	運賃計算の特例(新幹線と在来線並行区間の特例)	
	第8講	運賃計算の特例(区間外乗車)	
	第9講	運賃計算の特例(経路特定区間)	
	第10講	プランニング課題作成条件提示と注意事項	
	第11講	プランニング演習1(プラン構想を練る)	
	第12講	プランニング演習2(具体的にプランを設計する)	
	第13講	プランニング演習3(各自のプランについて熟考)	
	第14講	プランニング演習4(プラン計画と見積書の点検)	
	第15講	プランニング課題とその提出(締切は定期試験前の授業最終日、授業終了時)	
指導方法	実践演習が中心で、1月に提出するプランニング課題の作成能力養成のための基礎づくりとして、自分自身で時刻表をひきながら、キロ数を割り出し、運賃計算をします。さまざまな特例を復習しながら、条件や行程に合わせた運賃料金計算の実践を積み重ねていきます。毎授業時の提出物は合格するまで再度提出が必要です。		
授業外学習	事前学習としては、1年次前期に学んだJR運賃料金の計算方法を思い返しておくことです。事後学習は、そのルールについて時刻表のピンクページから検索して実践できるようにすることです。		
成績評価方法	本試験(筆記試験)50%、平常点(毎回の授業内での提出物)20~30%、平常点(プランニング課題)20~30% ただし、授業内の提出物が合格にならないとプランニング課題の提出はできません。またプランニング課題未提出の者、出席率が2/3未満の者は評価の対象外となります。		
ステキ	『JR時刻表』(大型2017年10月号)授業内はもちろん、定期試験も時刻表持込必須のため必ず購入してください。		
書籍参考	『2017(2018) 旅行業務取扱管理者シリーズ TEXT 3 運賃料金』 (株)旅行綜研 2018年		
事項記	1年次に「旅行実務論」を履修していない者は、基本的なJRの運賃計算が理解できていないと厳しいと考えられる。(要相談)		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
観光地理	日本の観光地と観光資源	有馬 貴之	1 年次前期
講義の目的	日本には多くの観光地や観光資源が存在します。それらは観光客を引き寄せ、経済を潤す源でもあります。観光地や観光資源を適正に運営・管理していくためにも、観光地や観光資源が国内の「どこ」にどれだけあるのかを理解する必要があります。本講義では日本の観光地や観光資源についての学び、知識を深めることを目的とします。日本の観光地について深く知ることができれば、自分自身で旅行先を柔軟にプランニングすることができるでしょう。本講義は旅行業務取扱管理者資格（国内）の受験対策としても位置づけられます。		
到達目標	本講義の到達目標は以下の3点です。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本各地の観光地や観光資源を把握できる。 ・自分オリジナルの旅行企画を立てることができる。 ・旅行企画を相手に対し、説明することができる。 		
講義内容	様々な地域をそれぞれに理解する時には、各地域がどんな特徴を持っているのか、また何故その場所に位置しているのかを考えることが重要です。本講義では、日本の観光地を対象にして、その位置や資源性を学んでいきます。例えば、観光地となっている温泉地は日本のどの地方に多く、寺社仏閣はどの地方に多いでしょうか。本講義では反転授業というスタイルをとることも特徴です。受講生には動画等による予習が求められます。		
講義スケジュール	第1講	イントロダクション（観光地理と反転授業）、北海道1：道南・道央	
	第2講	北海道2：道北・道東、東北1：青森・岩手	
	第3講	東北2：秋田・宮城・山形・福島	
	第4講	関東1：茨城・栃木・群馬・埼玉	
	第5講	関東2：千葉・東京・神奈川・山梨	
	第6講	北陸：新潟・富山・石川・福井	
	第7講	中部：長野・岐阜	
	第8講	東海：静岡・愛知、近畿1：三重・滋賀	
	第9講	近畿2：京都・奈良・和歌山	
	第10講	近畿3：大阪・兵庫、中国1：岡山	
	第11講	中国2：鳥取・島根・広島・山口	
	第12講	四国：徳島・香川・愛媛・高知	
	第13講	九州1：福岡・佐賀・長崎・熊本	
	第14講	九州2：大分・宮崎・鹿児島・沖縄	
	第15講	まとめ	
方法指導	本授業は演習形式で進めます。すなわち、受講者一人一人の自発的な学習意識が必要となります。また、予習動画を視聴する必要がありますので、スマートフォンやパソコンなどのネット環境が個々の学生に必要となります。適宜授業中に資料を配布します。		
授業外学習	本授業は反転授業の形式を用います。そのため以下の事前学習と事後学習が必要となります。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：提供された予習動画の視聴に基づく勉強 ・事後学習：他の学生が考えたツアー企画等の場所や資源の勉強 		
成績評価方法	成績は以下の3つで評価します。 平常点（授業内テスト）40%、平常点（授業内の演習への取り組み・発表）30%、本試験（筆記試験）30%		
テキスト	『旅行業務取扱管理者シリーズ TEXT 4 国内旅行実務Ⅱ〈観光地理〉』TRAVEL JOURNAL(株式会社トラジャルウエスト)		
書籍参考	『日本を旅する大旅行地図帳』平凡社		
事項特記	本授業では反転授業の形式を取ります。具体的には、授業前の予習として、オリジナルに作成された日本の観光地を紹介する予習動画をスマートフォンやパソコン等で予習していただく必要があります。そのため、受講生には予習動画を視聴するネット環境が求められます。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
ホスピタリティ論	「おもてなしの心」を探求する	湯田 聡	2年次後期
講義の目的	接客業に携わる者が身につける必要があるホスピタリティ (hospitality、おもてなし) について学びます。①サービスとホスピタリティの違いを知ること、②ホスピタリティの理論と実践を並行して学ぶこと、③ホスピタリティを社会生活や職業生活の場で役立てること。以上がこの講義の目的です。		
到達目標	接客業に携わるにふさわしい物の考え方や行動様式を習得すること。		
講義内容	① ホスピタリティの学術的側面 (理論、哲学など) について解説します。 ② ホスピタリティの実践的側面 (接客場面などでの応用) について解説します。 ③ ホスピタリティを実践するための技法 (表情、態度、発語、話題、礼法など) について解説します		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション～授業概要や運営方法等の説明	
	第2講	「ホスピタリティ」の起源	
	第3講	ホスピタリティの哲学～欧米的発想と日本的発想	
	第4講	サービスとホスピタリティの違いを知る	
	第5講	賞詞・苦情の実例を学ぶⅠ～賞詞	
	第6講	賞詞・苦情の実例を学ぶⅡ～苦情	
	第7講	ホスピタリティの実践Ⅰ～接客場面を中心として	
	第8講	ホスピタリティの実践Ⅱ～社会生活を中心として	
	第9講	ホスピタリティの実践技法Ⅰ～お客様を観察する	
	第10講	ホスピタリティの実践技法Ⅱ～笑顔の段階と表情について	
	第11講	ホスピタリティの実践技法Ⅲ～日本語の発音の基本を「駅名」を教材に学ぶ	
	第12講	ホスピタリティの実践技法Ⅳ～耳で聞いてわかる音声言語のあり方について	
	第13講	ホスピタリティの実践技法Ⅴ～礼法について	
	第14講	感性を磨くための理論と手法	
	第15講	まとめ	
方法指導	基本的には講義形式で行いますが、受講者にも積極的な発言を求めるなど、参加型の授業にしたいと考えます。具体的な事例を多用して、わかりやすく解説します。		
授業外学習	事前学習としては、ふだん利用する交通機関・飲食店・小売店などの接客接遇を注意深く観察し、気がついたことや疑問に思ったことをメモに残して授業に臨んで下さい。事後学習としては、授業で学んだことを参考文献などで調べ、理解や考察を一層深める努力をして下さい。		
成績評価方法	本試験の結果と平常点評価を総合して行います。その割合は本試験 (筆記試験) が 50%、平常点 (小テスト) 5%、平常点 (授業内課題) 5%、平常点 (講義参加姿勢) 40%とします。3分の2以上出席しなければ評価対象としません。		
テキスト	テキストはありません。必要な資料は授業中に配布します。		
書籍参考	「接客サービスのマネジメント」石原 直著、日経文庫、2012年 「帝国ホテル流 おもてなしの心 客室係50年」小池幸子著、朝日文庫、2013年		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
観光事業論	「観光」とは何かを明らかにし、観光産業を学ぶ	太田 実	2 年次前期
講義の目的	本講義の目的は、旅行業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を習得することである。本講義で、その基礎となる観光に関わる基礎知識、および、主要産業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を習得できる。		
到達目標	本講義の目標は、漠然と使用されている「観光」とは何かについて習得すること、ならびに、旅行業を中心とした観光産業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を習得することである。		
講義内容	観光産業を支えてきたのは、航空、鉄道などの運輸業や、ホテルなどの宿泊業、旅行業などである。本講義では、前半部分で観光に関する基礎的な知見を学習し、後半部で各種観光産業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を学習する。この授業を通して、観光サービス提供者の役割のみならず、よき旅行者としての行動も合わせて学ぶ。		
講義スケジュール	第1講	ガイダンス：講義の進め方。シラバスを読み、この講義への自身の興味・関心、質問事項等を考えておくこと。	
	第2講	観光とは：「観光」および「旅行」の定義を理解する。観光の構成要素、現代観光の特色を理解する。	
	第3講	海外の観光史：古代・中世・近世の観光の成立過程を理解する。大衆観光の拡大要因を考察する。	
	第4講	日本の観光史：中世までの旅、江戸時代の旅を理解する。日本における近代観光の成立過程を理解する。	
	第5講	観光政策の具体例：ビジットジャパンキャンペーンを事例にインバウンド旅行の促進を考察する。	
	第6講	観光と環境：自然環境保護の系譜、観光と自然環境の保護・保全、観光とごみ問題等について考察する。	
	第7講	観光と教育・福祉：観光教育と教育観光、観光と福祉、旅行産業への社会的要請等について考察する。	
	第8講	前半部分のまとめと授業内確認テストを行う。	
	第9講	交通業：交通業の発展史、及び近年の動向について概説する。	
	第10講	宿泊業：ホテルの発展史、現代ホテルの経営方式等について把握する。	
	第11講	旅行業1：旅行業の成立経緯、旅行業の業務内容、システムオーガナイザーとしての役割等について考察する。	
	第12講	旅行業2：旅行業の職種を学び、旅行代金算出の演習を行う。	
	第13講	ツアーコンダクター：ツアーコンダクターの機能と役割について考察する。	
	第14講	テーマパーク：テーマパークの発展過程、テーマパークの種類等、概要を把握する。	
	第15講	まとめとグループワーク。これからの観光産業の活性化について論じる。	
方法指導	テキストを中心に、適宜プリントを配布して講義を進める。時間内において、随時ミニテスト、ミニレポートを課す。		
授業外学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。また、事後学習として、テキストに記載されているチェックポイントについて自分なりに考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。		
成績評価方法	平常点（授業内テスト・レポート）50%、本試験（筆記試験）50%とする。ただし、出席が2/3以上でない場合は評価の対象にはならない。		
テキスト	太田実編著『新・観光を学ぶ』八千代出版		
書籍参考	前田勇『新現代観光総論』		
事項記	意欲のある学生の受講を希望する。		